

2019年全日本カート選手権 OK部門 第1・2戦 2019年全日本カート選手権 FS-125部門/FP-3部門 西地域第2戦
2019年ジュニアカート選手権 FP-Jr部門/FP-Jr Cadets部門 西地域第2戦 [JAF公認No.2019-1803]

開催日: 4月27~28日 開催場所: 鈴鹿サーキット国際南コース 格式: 国内/準国内 主催: SMSC [クラブ登録No.公認82401]

フォト/小竹充、JAF スポーツ編集部 レポート/水谷一夫

OK部門第1戦は井本大雅が最後尾スタートからの初優勝!



好調なブリヂストン勢を抑え、ダンロップタイヤを履く井本大雅選手が大逆転を果たした。



国内カートレースの最高峰、全日本カート選手権OK部門の2019シリーズ開幕戦。そのエントリーリストに、2018チャンピオン佐藤蓮選手や同シリーズ3位の名取鉄平選手の名前はない。代わってここに名を連ねたのが、10名のルーキーたちだ。そして、大会初日の午後に行われたタイムトライアルは、新時代の到来を予感させるものとなった。

コースレコードを更新してトップとなったのは、この部門2年目で2018ランキング22位の古谷悠河選手。3番手にも2年生の山田杯利選手が。2番手と4番手に着けたのはルーキー



OK部門第1戦/1.終始テールトゥーノーズのトップ争いを繰り広げた佐々木大樹選手は2位。2,3位は昨年までFS-125部門で走ってきた大車りく選手。3.第1戦入賞の皆さん。



の2人、渡会太一選手と佐藤凌音選手。上位陣の顔ぶれは、昨年とは別物だ。

続いて行われた第1戦の予選では、高橋悠之選手が5番グリッドから1位でゴール。山田選手が2位、参戦2大会目の伊藤琢磨選手が10

ポジションアップの3位に。古谷選手と佐藤選手は順位を落とした。この結果をタイヤの面から見ると、ブリヂストン・ユーザーが10位までを占拠。戦前の「BS強し」の観測は正しかった……かに思われた。



今年で3年目となるOK部門は、ルーキー 10名を含め30台がエントリーした。



4. OK部門第2戦／4.第2戦入賞の皆さん。5.第1戦でペナルティを受けた高橋悠之選手が2位入賞。6.3位には28番手スタートの皆木駿輔選手。7.ベテランならではの貫禄のある走りで見事に優勝した佐々木大樹選手。



FS-125部門／決勝は一騎打ちの展開に。8.奥田も選手の真後ろで終盤の逆転を期して周回を重ねた居附明利選手は、残り5周でトップに立って開幕2連勝を飾った。9.同部門3戦目の山田拓人選手が2位に入賞。10.2番手でゴールした奥田選手は、フロントフェアリングのペナルティで悔しい3位となった。11.入賞の皆さん。



FP-3部門／優勝争いを繰り広げたのは大島良介選手、高村宏弥選手、村松伸一選手の3選手だ。12.互いの手の内をよく知り合う3者だったが、この僅差のバトルで勝利したのは村松選手だった。13.2位争いを制したのは高村選手。14.タイムトライアルと予選では好調だった大島選手だが悔しい3位に。15.入賞の皆さん。



大会最終日。第1戦の決勝には、まさかのドラマが待っていた。昨年最多勝の佐々木大樹選手が、マシンのセットアップに悩みながらヒートごとに順位を上げ、いよいよ先頭に浮上。レース中盤以降は佐々木選手と山田選手のトップ争いとなった。すると、そこに急接近してくる1台のマシンが。予選をスタートできず最後尾グリッドとなった、ダンロップ・ユーザーの井本大雅選手だ。

いちばん後ろからのスタートながら、予選12周分の余力をタイヤに残した井本選手は、24周レースの20周目に3番手へと浮上し、22周目には佐々木選手を、23周目には山田選手をパスしてついにトップへ。そして、そのままチェッカーをくぐった。「最後の最後まで勝てる手応えはありませんでした」と井本選手。OK部門参戦3年目での初表彰台、そして初優勝。それは、ライバル全車を逆転し、ダンロップにド

ライコンディションで1年半ぶりの勝利をもたらす大金星だった。

トップ交代劇の混乱を突いて、佐々木選手が2位を奪取。続いて3番手に上がった高橋選手はスタート時の違反で6位に降格され、10番グリッドから浮上の大車りく選手が3位に繰り上がってルーキー勢の表彰台一番乗りを果たした。絶好調だった山田選手は、最後の最後で4位に終わり茫然自失の表情だ。

第2戦の予選は、佐藤選手と山田選手のトップ争いとなった。最年少14歳の佐藤選手は、山田選手のプレッシャーに耐えながら先頭を死守する。だが、最終ラップ。FP-Jr部門上がりのルーキーの決勝ポール獲得という快挙を目前にした佐藤選手のエンジンがいきなり壊れ、そこに山田選手が追突。マシンを止めた2台に替わって、森山冬星選手が1位でゴールしてポールを手に入れた。

決勝は一転、2周目に3番グリッドの佐々木選手と2番グリッドの高橋選手が1・2番手に躍り出て、チームメイト同士のタンデム走行でライバルたちを引き離していった。高橋選手は後半戦の勝負をもくろみ、佐々木選手を追う。だが、ついにマシンが納得できる状態に仕上がった佐々木選手は、レースの折り返し点からリードを広げ、横綱田撲の独走で今季1勝目を獲得した。「天候不順のせいで(レースウィークの)テストが思うように進まなかったけれど、結果的に優勝できてよかった」と、充実の表情で語る佐々木選手。

2位の高橋選手に続き、予選DNSの皆木駿輔選手が3位でフィニッシュして、またもダンロップ勢が表彰台の一角に。井本選手はここでも13台抜きで4位に入賞し、佐々木選手と高橋選手に続くランキング3番手に着けた。



FP-Jr部門／フロントローの2人がレースを引っ張った。16.近江川暖人選手はトップの真後ろを追いかけ、ラスト2周で猛攻したが届かず2位。17.セカンドグループを抜け出して3位でフィニッシュした小椋梓選手。18.入賞の皆さん。19.ポールスタートから見事逃げ切った迫隆真選手が初優勝となった。



FP-Jr Cadets部門／トップ争いは実力伯仲の熱いバトル。20.松本琉輝選手は6度のポジションチェンジを繰り返した末、ほぼ横並びでフィニッシュして2位。21.中井悠斗選手が大集団の3位争いを制し、兄弟揃って表彰台に立った。22.入賞の皆さん。23.中井陽斗選手が松本選手に0.082秒差着してウィナーとなった。